

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201054		
法人名	株式会社フジミヤ		
事業所名	グループホームやすら木の家		
所在地	長野県松本市島立2225番地1 (電話) 0263-40-3711		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】 (平成21年 1月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤12人, 非常勤 4人, 常勤換算13.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000円(冬季18,000円)
敷 金	有 (200,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要 (平成21年 1月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	0	要介護 2	6		
要介護 3	6	要介護 4	4		
要介護 5	2	要支援 2	0		
年齢	平均 86.8 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相澤病院・島内診療所・大久保クリニック・なお歯科医院・清水メンタルクリニック・杉山外科医院・杉山歯科医院・こばやしクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松本インターの西側、徒歩で10分ほどの場所にホームがある。松本平の周りの、雪の山々が立春の陽光を浴び、まぶしく、美しく、輝く様をホームから見る事ができた。開設より五年が経ち現在の若い管理者にバトンが渡された。母体が営利法人ということから周辺の方々との理解を得ることがなかなか難しい中、地域との関わりのもとで入居者の生活をどのようにすることが最善か、試行錯誤を重ねている。長い目で見ればこのようなホームが近所にあることが地域住民にとっては宝物だと思っただけの時が必ず来るものと思われる。職員は若い方から経験豊富な方まで、まさに家族といえるような幅広い年齢層で構成されている。入居者は平屋作りの2ユニットの間を自由に行き交い各々の生活を楽しんでいる。木の香りもふんだんな「やすら木の家」の住人として暮らしている入居者の穏やかな表情から、ホームでの生活を満喫していることが十二分に窺えた。若い管理者のもと初心を忘れることなく、理想とする「家庭での介護」を継続発展していただき、更に飛躍することを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 「理念」、「職員の異動」、「同業者との交流」、「災害対策」、「栄養摂取」など指摘を受けた項目については「すぐに改善する項目」、「継続的に行っていく項目」など優先順位をつけ改善に結びつけるよう努めてきた。ホームサイドより関係機関への働きかけはしたが進展していない項目もやや見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 全職員参加による自己評価が行われた。初めて体験する職員も多かったが、職員各々の言葉で表現されていた。職員にとっては今までのケアの反省とこれからの行動を考える良い機会となった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 市からは2ヶ月に一回の開催と報告書の提出が義務付けられており、定期的に運営推進会議を実施、報告している。内容は地域の方にホームがどのようなものかを知っていただくため、介護施設としての目標や地域への貢献などを議題として検討している。メンバーが偏りがちであるが、近隣住民の委員の参加を促すため市をはじめ行政関係者等からの後押しもいただけるよう再度要望されたら良いのではないだろうか。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 毎月家族のもとへ、入居者のケアプラン、一ヶ月の生活の様子などを載せた「今月の私」を送っている。ホームへの返信用として家族の意見欄を設け記入していただいている。家族の方々による記入も沢山あり、ホーム職員との意見交換はスムーズに行われているものと思われる。来訪の折は職員も心がけて話しかけるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 平日頃近所に出かけた時には「やすら木の家」の入居者ということを知って頂けるように挨拶している。保育園より運動会の招待があり交流している。高校生のボランティアもあり、それがきっかけで卒業したら就職したいという希望者もいる。近隣住民の中に野菜・花などの差し入れをする方が少しずつ増えてきている。昨年は入居者の一人が写真展を開き、地域の方にも見学していただいた。「子供を守る安心の家」にも登録し地域との関係作りに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の基本理念「心地よく、穏やかに」、「ゆとりの時間と空間」、「個別性を重視する視点」、「入居者の権利」に新しく「地域の福祉とともに」を加え、わかりやすく親しみがもてるよう平易な言葉で表現したホーム独自の理念がつけられている。入居者の手で大書された理念がホールに掲げられ、いつでも、誰の目にも留まるように工夫されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	状況に応じて職員の定例会の際などに理念に触れ話し合っている。職員はホームの理念を理解し、毎日の生活支援に活かしている。プライバシーに配慮しつつ、理念に沿って職員の間で発言を自由にすることを心がけ、入居者についての情報も共有し役立っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム近隣は新しい居住者と古くからの居住者の住宅が混在している。徐々にではあるが個人的に野菜、花等の差し入れをいただいている。「子供を守る安心の家」に登録するなど地域活動にも貢献している。ホームで写真展を開催し近隣の方や家族の方の来訪を促したり、保育園児との交流、老人会への参加など地域の人々とふれあう機会が徐々に広がっている。	○	ホーム側では地域との交流を更に推進していきたいと考えている。高齢者のいる家族へ「困ったことがあったら相談してください」などの声かけをしており地道な努力をされている。今後も地域の方々に受け入れられるよう更に働きかけをお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に参加した。各々の言葉で表現し、それを管理者と事務職員が総括しまとめられた。職員が今まで行ってきたことの中で実際はあまり役に立っていなかったこともあることに気づき、今後の各自の課題が明確になった。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開いている。現在、市より2ヶ月に一回の開催と報告書提出が義務付けられている。今年度のメンバーは家族と職員、地域包括支援センターの職員で実施されている。委員を依頼しても都合がつかないことを理由になり手が少ないという悩みを抱えている。	○	地域密着型サービスにおける運営推進会議の重要な位置づけを説明し、ホームが地域に開かれたサービスとして更に発展するよう多方面からの委員の確保へ向けて地道な努力をお願いしたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口である高齢福祉課や地域包括支援センターと連携している他、介護相談員の派遣をしてもらっている。	○	地域住民の参加が種々な要因により得られないことについて、地元地区役員など多方面の関係者と相談し、地域住民へ働きかける機会を作っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「やすら木だより」・「今月の私」を家族のもとへ送っている。「今月の私」は1ヶ月間の入居者の状態を書き記したもので、裏面にはケアプランが添付されている。毎月の生活と変化が記されており、離れて生活している家族には嬉しい便りとなっている。金銭管理については出納帳にて報告され確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に毎月送付する「今月の私」の最後に家族の意見を書く欄を設けてある。そこにケアプランに関すること、要望等、なんでも記入していただきホームへ返送していただいている。ケアプランに取り入れたり、毎日の生活に反映させている。家族面談も随時行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	社内での異動は考えていない。開設より5年が過ぎたが、この3年の間は職員の退職はない。近く出産休暇に入る職員がいるため交代する職員と並行して働いてもらい、入居者の混乱を避けるように努めている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はホームでの生活が楽しいと発言していた。運営事業部の責任者と職員との個人面談も実施されておりスキルアップへの意向等も把握され、意思疎通が図られている。研修に関しては費用の援助をしたり、積極的に参加するよう職員に働きかけがされている。資格取得も奨励されている。研修報告もカンファレンス等で行っており職員間で共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し情報の交換をしている。他のグループホームへの研修・見学も行っている。参加した職員は自分のホームと他のホームのやり方を比較をすることにより自信や新たな発見にもつながり、有意義な研修・見学となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	平均して一週間くらいの体験入居をしていただいている。問題がない場合にはそのまま入居となる。事前に入居希望の方の資料を頂くが、実際、ホームに来ていただき生活をしていただくことで本人の気持を確認することが出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員からお年寄り向き合うことが苦手と感じていたが実際に触れ合ってみると心地よく、色々なことを沢山教えてもらっていると伺った。料理や漬物を作る時も入居者の力を借りたり知恵をもらいながら行っている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	若い職員が多いホームであるが落ち着いた雰囲気を感じ取られる。入居者主体に考え行動しているからだと思われる。言葉での意思表示が難しい方は顔の表情や仕草と今まで一緒に生活してきた積み重ねから読み取り判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の希望等を聞き、毎日の生活記録「今日の私」に各々の職員が入居者の状態を書き込み、ケアマネージャーはそれらを参考にしつつ職員の意見を聞きながらプランを作成している。定例会で介護計画を職員に提示し、支援方法などを全職員で共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会で実施状況を確認している。状態の変化や継続に問題がある場合には新たなプランを作成している。毎月送付する「今月の私」に家族よりの意見や要望がある場合は参考にし役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備しており、常勤の看護師が病院等への受診に付き添っている。入居者の個々の要望に応じて、ドライブ、外食、買い物にも同行している。		

グループホームやすら木の家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医をお持ちの入居者にもホーム協力医を伝えている。遠方の主治医から変更する家族もいる。協力医による往診が月に一回行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する指針があり、本人がその対象になった時には医師、家族、ホーム側と話し合っている。医療機関からの退院時には「やすら木の家にお戻りいただくにあたっての確認書」を取り交わしている。入居者家族との確認書が交わされた時点で職員へ伝え、ケアの方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の情報は事務室に保管されている。日常生活では入居者に対し「人生の先輩」・「年長者」という意識のもとに尊敬の念をもって接している。職員が入居者の耳元で優しく、ゆっくりと話しかけている姿を垣間見ることができた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日の流れは作られているが、入居者の要望を聞いたり、新聞などの情報やその日の天気から即決して出かけることもたびたびある。今年は年頭に初詣に出かけ良いスタートとなった。入居者の希望などを可能な限り取り入れる努力をしている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとの献立で、食材の買い出しから始まり、調理の準備、後かたづけなどできる範囲の役割が入居者ごとにある。「見た目」と「匂い」など、食欲をそそるような調理方法が工夫されている。時おり外食の企画も立てられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	タイプの違うお風呂が3ヶ所に設置されている。現在対象者はいないが、寝たきりになっても入浴できるお風呂を平成16年に増設された。入浴時は職員の見守りが中心で着脱を支援する場合もある。入居者が入浴時間の変更を希望すれば柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームに入居されてからパソコンを扱えるようになった方、自慢の筆で「ホームの理念」を書いた方など、職員の支援を受け小さなことでも出来ることを行っている。入居者の誕生日には職員手作りのケーキでお祝いをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬の間の散歩は控えているが、暖かくなるとホームの周辺を散歩する。少人数で交代しながら食料品・日用品の買出しに出かけている。回転寿司や美味しいおそばを食べに外出することもたびたびある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていない。リビングの目立たないところに居室番号と時間が記入された表があった。職員が時間ごとに入居者の居場所を確認したり声がけし鍵を掛けない支援につなげている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回避難訓練を行っている。消防署の指導のもとに行われ、参加できなかった職員には後日書面と消火器等の扱い方などを説明し周知徹底を図っている。電話による通報連絡の訓練も行われており、事務所には連絡網が掲示してある。警備会社と連携した訓練も行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日の記録「今日の私」に3食ごとの摂取量が記入されている。水分は午前・午後のお茶の時間や食事の時、入浴後などに補給している。社内に栄養士がおり、献立などの相談やアドバイスを受けることが出来る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房とエアコンで温度調節がされている。ホールには入居者がパソコンで作成したカレンダーや書道の得意な方の書などが飾られている。共有空間にはソファが置かれ、各自好きな場所で時間を過ごしていた。天窓よりの光を和らげるようにリビングの天井にスタレを付け大人の居場所といった洒落た雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にホームから「部屋に入るだけ好きなものを持ち込んでください」との話がある通り、それぞれ個性のある居室作りがされている。カレンダーや職員の顔写真を壁に張ってありほほえましく思えた。		

※  は、重点項目。